

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	換気・通風小委員会	主 査 名：甲谷 寿史 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (空気環境運営委員会運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：山中 俊夫
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・設置目的：換気、通風に関連した問題の中で、建築学会員の共同研究によって解明するのが適当と思われるトピックスについて議論し、必要に応じて研究グループを設けて研究を実施する。 ・2013 年度活動計画：各 WG の計画に基づいた活動を開始すると共に、書籍発刊やシンポジウムの企画について検討する。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：甲谷寿史、幹事：後藤伴延 委員：赤林伸一、飯野由香利、遠藤智行、大場正昭、清田誠良、倉渕 隆、竹林英樹、長谷川麻子、桃井良尚、山本佳嗣、吉野 博	
設置 WG (WG 名：目的)	(1) 学校空気環境改善 WG：学校における室内環境と省エネルギーについての研究・調査、実際の学校で実施可能な対策の提案 (2) 自然換気設計 WG：自然換気に関する計算法・測定法、及び設計に関する最新手法・最新事例を整理 (3) 気密性能 WG：気密性能に関する実態・研究の動向調査とデータベース作成、ガイドラインの作成 (4) 建物換気理論 WG：換気計算法や換気測定法の基礎の整理と最新手法の整理及び「Building Ventilation」の翻訳書の出版	
2013 年度予算	179,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	17 回、WG を含む
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	実務者のための自然換気設計ハンドブック
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	シンポジウム「実務者のための自然換気設計～理論、基本設計、詳細設計から実践まで」 参加者数 120 名 実務者のための自然換気設計～理論、基本設計、詳細設計から実践まで
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 学校環境についての実測調査および文献調査、マニュアル公表に向けた最終校正 2. 実務者のための自然換気設計ハンドブックの刊行とシンポジウム開催 3. 建物気密性能に関する既往研究や諸外国における動向調査、データベース構築準備 4. Building Ventilation の翻訳内容の検討及び基礎理論の調査
委員会活動の問題点・課題	来年度の空気シンポジウムへ向けた準備

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>(1) 学校空気環境改善 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：目的に沿った実測調査および文献調査、学校空気環境に関するマニュアル公表に向けた最終校正をおこなった。 ・WG 活動の問題点・課題：出席者に偏りがあり、同じ議論が繰り返されることもあったので、メールなどを用いた通信審議で情報共有を図る必要がある。今後の課題は、学校空気環境に関するマニュアル公表、シンポジウム開催。 ・WG 活動の総合評価：A <p>(2) 自然換気設計 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：実務者のための自然換気設計ハンドブックを刊行し、シンポジウムを開催した。 ・WG 活動の問題点・課題：シンポジウム参加者のアンケートにより、今後は自然換気の目標性能、室内環境、クレーム対策、最適な運用方法に関する検討が課題である事が分かった。これらの検討を進めるためにも、最新の自然換気事例を調査する。 ・WG 活動の総合評価：A <p>(3) 気密性能 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：建物気密性能の実態、室内設備へ及ぼす影響、測定方法等に関する既往の研究や諸外国における動向の調査を行い、データベース構築の準備を整えた。 ・WG 活動の問題点・課題：気密性能のデータベースの作成、気密性能の予測法、換気システムと対応した気密性能の最適レベルなどについて議論し、ガイドラインとしてまとめる。 ・WG 活動の総合評価：A <p>(4) 建物換気理論 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：Building Ventilation の 6 章「空気年齢分布モデルを用いた室内混合現象の表現」の内容について、和訳内容と基礎理論の確認を行い、訳本出版に向けた準備を行った。 ・WG 活動の問題点・課題：訳本出版に向けては、原著出版元に支払いが必要であり、また訳本に対する出版助成が少ないため、出版費用の確保が課題である。訳本内容については、空気調和・衛生工学会の SHASE-S との用語等の整合性を取る必要がある。 ・WG 活動の総合評価：B 			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。

